

令和6年度 城陽市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

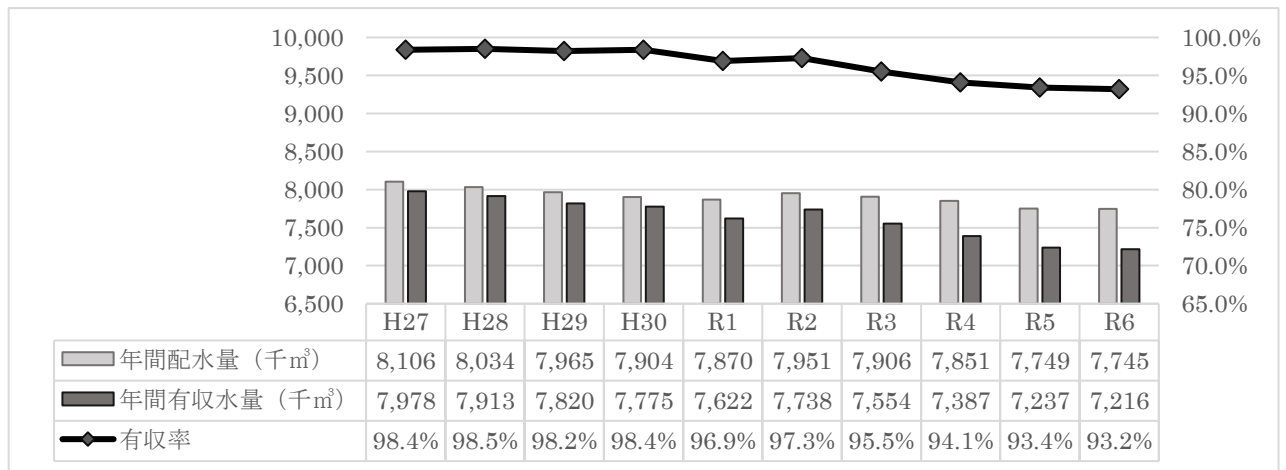
本市の水道事業は、給水人口の減少等により、有収水量は減少傾向が続いています。
また、依然として企業債の残高が非常に多額で将来への負担が大きく、厳しい経営状況となっています。

令和5年度には安定した事業運営の持続性確保のため、水道事業ビジョンの中間見直しを行い、令和6年8月1日から平均約23%の水道料金改定を行いました。

また、昨今頻発する地震等の災害や施設の老朽化対策は、同ビジョンの最重点施策「基幹管路の耐震性の確保」、重点施策「適切な施設の更新」、「適切な管路の更新」として掲げているところであり、今後も着実に取り組みを進めていく必要があります。

ア 業務状況

年間配水量、年間有収水量及び有収率の推移は下表のとおりです。



令和6年度の年間配水量は774万5,379 m^3 、年間有収水量は721万5,994 m^3 で、それぞれ前年度よりも減少しました。

有収率は、継続的な漏水防止調査や検針時の漏水早期発見により、引き続き全国平均の約90%を大きく上回っていますが、減少傾向にあります。

イ 収益的収支の状況

消費税抜きの総収益は16億932万5,262円で、前年度に比べて1億5,053万5,029円、率にして10.3%増加しました。このうち、水道料金収入は料金改定の影響により、前年度に比べて1億4,540万2,649円、率にして11.7%増加しました。

次に、総費用は13億4,026万5,600円で、前年度に比べて7,496万7,615円、率にして5.9%増加しました。これは、管路の耐震化事業に伴う除却により資産減耗費が増加したことや、第3浄水場の浸水対策工事に伴う除却により、特別損失が大幅に増加したことが主要因となります。

この結果、収益的収支では、純利益が前年度に比べて7,556万7,414円、率にして39.1%増加し、2億6,905万9,662円となりました。

なお、この純利益は城陽市水道事業及び公共下水道事業の設置等に関する条例第5条第1項の規定に基づき、全額を減債積立金へ積立てることとしています。

ウ 資本的収支の状況

資本的収入は、消費税込みの総額で6億6,003万3,368円となり、前年度に比べて2億3,947万1,609円、率にして56.9%増加しました。

資本的支出は、消費税込みの総額で16億5,102万9,707円となり、前年度に比べて6億3,714万2,928円、率にして62.8%増加しました。これは、管路耐震化の大型事業を実施したことが主要因となります。

この結果、資本的収支では、資本的収入額が資本的支出額に不足する額が、前年度に比べて3億9,767万1,319円、率にして67.0%増加し、9億9,099万6,339円となりました。当該不足額は、減債積立金取り崩し額1億9,349万2,248円、資本的収支調整額1億565万3,186円及び過年度分損益勘定留保資金6億9,185万905円で補填しました。

エ 水道事業ビジョンの進捗評価

水道事業ビジョンの最重点施策「基幹管路の耐震性の確保」及び重点施策「浄水場、ポンプ所の耐震性の確保」の進捗状況は下記のとおりです。

指標		令和5年度 (計画6年度) 決算	令和6年度 (計画7年度) 決算	令和9年度 (計画最終年度) 目標	前年度 比較
①	浄水施設の耐震化率	78.2%	78.2%	78.2%	0.0ポイント
②	ポンプ所の耐震化率	93.3%	93.3%	100.0%	0.0ポイント
③	配水池の耐震化率	77.6%	77.6%	100.0%	0.0ポイント
④	基幹管路の耐震適合率	46.2%	51.2%	70.0%	5.0ポイント

中区配水管等の布設工事を実施したことで、基幹管路の耐震適合率が増加しました。
また、水道事業ビジョンに掲げる経営目標については下記のとおりです。

指標		令和5年度 (計画6年度) 決算	令和6年度 (計画7年度) 決算	令和9年度 (計画最終年度) 目標	前年度 比較
①	給水収益に対する 企業債残高の割合	349.5%	331.7%	430.0%	△17.8ポイント
②	給水人口1人当たり 企業債残高	58,953 円	63,078 円	89,000 円以下	4,125 円
③	企業債残高	4,335 百万円	4,597 百万円	6,500 百万円以下	262 百万円
④	料金回収率	110.8%	122.0%	100.0%以上	11.2ポイント

企業債については、令和5年度の水道事業ビジョンの中間見直しにおいて、増加する資金需要に対応するため、発行額の抑制内容を一部緩和しました。そのため、「③企業債残高」及び「②給水人口1人当たり企業債残高」は増加しています。

しかし、企業債残高の増加より料金改定の増加割合が高かったことにより、「①給水収益に対する企業債残高の割合」は減少し、「④料金回収率」は増加しました。

(2) 経営指標に関する事項

令和6年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、前年度に比べて8.2ポイント増加して123.5%となり、健全経営の水準とされる100%を上回っています。また、料金水準の妥当性を示す料金回収率は、前年度から11.2ポイント増加して122.0%となり、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる100%を上回っています。

償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は前年度から1.7ポイント減少して52.0%となりました。一方、当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は前年度から0.1ポイント減少して1.1%となりました。また、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度から1.0ポイント増加して34.4%となりました。これらから、前述の重点施策「適切な管路の更新」に経営資源を振り分けていく判断が必要となります。

< 経営指標の推移 >

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度 比較
①	経常収支比率	112.1%	115.3%	123.5%	8.2ポイント
②	料金回収率	108.1%	110.8%	122.0%	11.2ポイント
③	有形固定資産 減価償却率	53.3%	53.7%	52.0%	△1.7ポイント
④	管路経年化率	33.2%	33.4%	34.4%	1.0ポイント
⑤	管路更新率	1.6%	1.2%	1.1%	△0.1ポイント

2 損益計算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

損 失 の 部	金 額 (円)	利 益 の 部	金 額 (円)
営 業 費 用	1,238,220,527	営 業 収 益	1,428,185,359
原水及び浄水費	481,003,933	給 水 収 益	1,385,809,279
配水及び給水費	100,407,638	その他営業収益	42,376,080
業 務 費	49,699,100		
総 係 費	94,231,284		
減 価 償 却 費	454,022,981		
資 産 減 耗 費	58,855,591		
営業外費用	60,156,503	営業外収益	175,271,386
支払利息及び	57,639,795	受 取 利 息	661,765
企業債取扱諸費		及 び 配 当 金	
雑 支 出	2,516,708	長期前受金戻入益	162,337,452
		雑 収 益	12,272,169
特 別 損 失	41,888,570	特 別 利 益	5,868,517
過年度損益修正損	345,680	過年度損益修正益	584,219
その他特別損失	41,542,890	その他特別利益	5,284,298
当期純利益	269,059,662		
合 計	1,609,325,262	合 計	1,609,325,262

(注) 消費税抜き金額である。

3 貸借対照表

(令和7年3月31日)

資 産 の 部	金 額 (円)	負債及び資本の部	金 額 (円)
固 定 資 産	13,053,152,893	固 定 負 債	4,485,622,198
有 形 固 定 資 産	13,015,544,469	企 業 債	4,277,239,851
無 形 固 定 資 産	36,878,424	引 当 金	208,382,347
投資その他の資産	730,000		
		流 動 負 債	1,276,752,052
流 動 資 産	2,624,758,526	企 業 債	319,387,880
現 金 預 金	1,126,813,457	未 払 金	803,688,675
未 収 金	238,617,102	未 払 費 用	59,457,196
貸 倒 引 当 金	△ 942,000	引 当 金	17,702,000
短 期 貸 付 金	1,250,000,000	その他流動負債	76,516,301
前 払 金	10,030,000		
仮 払 金	239,967	繰 延 収 益	2,812,334,423
		長 期 前 受 金	7,676,840,125
		長期前受金収益化累計額	△ 4,864,505,702
		資 本 金	1,438,334,890
		自 己 資 本 金	1,438,334,890
		剰 余 金	5,664,867,856
		資 本 剰 余 金	44,960,368
		利 益 剰 余 金	5,619,907,488
合 計	15,677,911,419	合 計	15,677,911,419

(注) 消費税抜き金額である。